

最近はやりの「競争的研究資金信仰」に問題はないか？

(財) 高度情報科学技術研究機構

理事長 吉村 晴光

巻頭言というのは大所高所から当たり障りのないことを書くのが常識かもしれないが、今回はよそでは活字にしてもらえそうにない愚痴を述べることをお許し願いたい。

RISTはここ数年、地球シミュレータを使用させて頂いて、自主研究としてナノテク・シミュレーション研究を行っている。その成果は地球シミュレータの利用成果発表会で発表し、好評を得ている。また、去年の「スーパーコンピューティング2003 (米国フェニックスで開催)」でナノテク・シミュレーションをテーマにBOF (birds of a feather、同好者の集り) を開くことを米国の研究者とともに提唱し、多くの参加を得ることができた。本年の「スーパーコンピューティング2004」ではその実績が認められ、ワークショップに格上げされて開かれることとなった。このようにRISTのナノテク・シミュレーション研究は、国内外でそれなりの評価を得ていると自負している。

RISTは財政的に苦しく、ナノテク・シミュレーションを自主研究で行う余裕がないので、今はやりの競争的研究資金に2～3回応募してみたが、書類選考にも通らなかった。曳かれ物の小唄と言われるかもしれないが、談合・ボス支配の批判があった科研費的体質がここにも伝染しているのではないかとひがまざるをえない。

わが国の科学技術政策の司令塔といわれる

総合科学技術会議は、競争的研究資金の拡充を打ち出しているが、当然のことながらこれと同時に評価体制の確立を求めている。同会議の指針によれば「研究計画を十分理解し、評価できる当該分野における業績を有する第一線の研究者を評価者とする」こととされている。もっともらしいが、この記述は凡人には理解できない。第一線の研究者とは寝る間も惜しんで研究している人のことで、評価作業に時間を裂けるわけがなく、評価作業に時間を裂ける人はすでに第一線から離れた人と理解するのが常識ではなかろうか。好意的に解釈して、つい先日まで第一線で活躍していた研究者のことと理解したとしても、実際には“ずっと前に第一線であった”人が選任され、総合科学技術会議が意図したようにはなっていない場合があるのではないかと疑わざるをえない。(注参照)

競争的研究資金への信仰は、評価能力が整った場合には意味があるが、そうでない場合には弊害を生む。すなわち、競争的研究資金でなければ予算が取れない風潮を生み、行政的目標に沿って配分される研究資金や均等に割り当てられる研究資金の枯渇をもたらすからである。ノーベル賞を授与されると後追的に文化勲章が授与されることが多いことは、わが国科学界の評価能力に問題があることを如実に物語っている(文化勲章のほうがノーベル賞より格上と思っているのなら別で

あるが・・・)。

国立大学の法人化によってますます競争的研究資金への依存が進みつつある。文化・文明は既存概念の打破から生まれる。若者には年寄りに理解できないことをやるところに存在意義がある。このような若者の輩出が文化・文明の発展をもたらしてきたことは歴史の示すところであり、科学がこの例外とは思えない。競争的研究資金が研究費の中核を占めるようになると、審査員の理解を超える提案をする若手研究者には研究費の配分が細ることとなる恐れがある。昨年秋の日経ナノテク・フェアのレセプションで、ある学者に“研究内容が先端的であればあるほど、理解者が少なく、研究資金にも困り、報われることは少ないので、先端的研究に取り組むときはよほど覚悟しておいたほうがいいですよ”と警告されたことが思い出される。財団法人の経営の観点からは、先端的研究はやめて、みんなに受けのいいほどほどの研究をするよう方針転換をすればすむが、若手研究者が同じことを考え、“ずっと前に第一線の研究者であった”審査員に媚び始めると、将来のわが国の科学はどうなるのか心配になる。そもそも観念的にはともかく現実にはありもしない“公平な審査”という幻の上に構築された「競争的研究

資金信仰」の政策もほどほどにしないと、かえって将来の科学の芽を摘む危険性があることを、そろそろ気付くべきではなからうか？

(注) 競争的研究資金の一つである「平成16年度戦略的創造研究推進事業」(科学技術振興機構)に、(独)物質・材料研究機構と組んで「ナノ高温超伝導体による連続波テラヘルツ波光源の研究」で応募したが、書類選考で落された。落された理由を問い合わせたところ、“ジョセフソンプラズマを用いたテラヘルツ放射も独創性が高く評価できます。しかしながら、シミュレーションによる予測に基づく提案であり、実現可能性について多少疑問があるように思われます。”との回答であった。地球シミュレータによるシミュレーション予測が実際に成り立つかを確かめる研究を提案したのに、この回答です。あきれるとともに今まで不採択になってきた理由に納得がいきませんでした。シミュレーションの役割や最近におけるシミュレーション技術のめざましい発展を理解できていない人に審査されていたためだったと……。小生の見方を読者の皆様はどう思われますか。